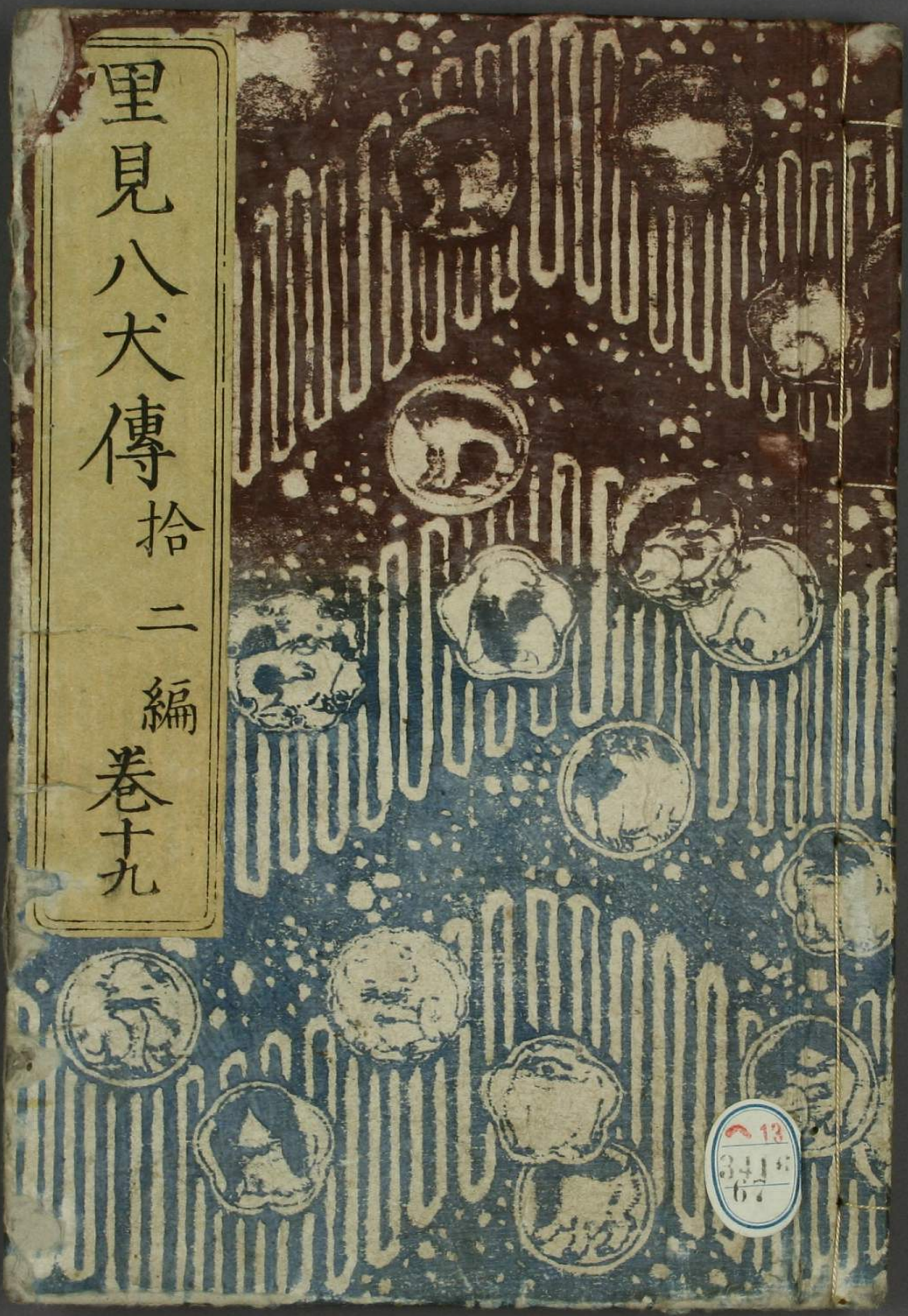




里見八犬傳 拾二編 卷十九



13
3414
67



曲亭翁編輯

八犬傳

第九

輯下帳

之中

柳川重信畫

江戸書林文溪堂精刊



南總里見八犬傳第九輯下帳中卷第十九箇端贅言

本傳文化十甲戌年第一輯五卷と綴り創りし。今茲天保八丁酉年小治と筆慮二十四の春
 秋と歴る。其間作者の腹稿或流し小據り或ハ昨の我ハ厭食て趣を易文と異りて體裁同
 かざるもわべと何ぞとしか始ハ只通俗と音と綴り不致奇字と以て故ハ行毎不假名
 くと。真名寡。六七輯小至てハ拙文唐山の俗語三抄を載て且意訓をりて彼義を知
 る必要を所為不似れも。世ハ獨学孤陋也。唐山の稗史小説と讀ま欲す諸生あり。
 其ハ筌蹄を弄りと思ふ作者の老波親切なり。あつて行毎不真名をりて。字の數
 二覚始ハ彌増し。抑曲学中。要るは書と好まきと綴り。余が如記多文ハ半表半
 裏の筆ハ成且。そと知る不わねも畢竟文字を婦幼の弄びをる技ハあれ。故て風流た
 る草子物語ハ取て吾師ハ做さるも。又彼唐山の稗官小説の大筆ハ奇絶るも。その文ハ
 模擬不要。然ハ坊間ハ寫本也。仍ハ軍記復讐録の類る。俗の看官も其れを

八犬傳九輯卷下九

文溪堂精刊

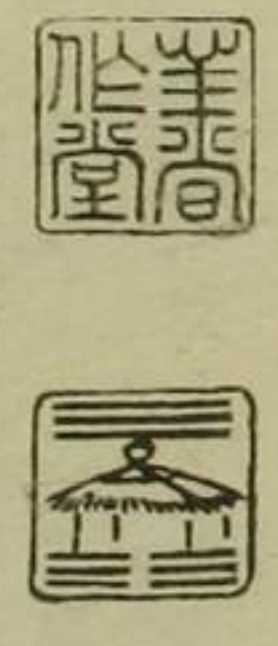
ぐ。余も素も綴り、發せざる故、吾文の枉て雅るる俗るる、又和申あむ漢申あむ、駁難
 杜撰の筆も、漫綴の創り、世人諺之、返け棄て、その中本傳の、其時好稱ひ、
 憶も、百四五十回、長物語、做りけり。その年來、吾机案上の、手更も、慙切、磋琢磨せ
 る、自得の戲、墨するもの、か、の如く、あむ、唐山、禪説の趣、を寫す、由、然、彼、文
 華の、困る、俗語、と、いふ、出、処、あり、て、悉、字、義、稱、へ、但、正文、と、異、る、所、以、て、用、同、か、所、依
 る、あり、譬、言、正文、の、慙、愧、と、い、ふ、即、恥、る、義、も、俗、語、也、且、忝、と、い、ふ、義、も、用、ひ、ら、又、手、更、考
 索、思、量、の、義、も、俗、語、也、空、虚、閑、暇、の、義、も、工、空、の、省、文、也、夫、の、助、語、を、れ、即、空、を、を
 り、俗、語、の、和、訓、の、外、か、よ、て、異、同、あり、然、る、原、を、極、め、て、此、間、抄、録、する、俗、語、を、を
 取、用、し、大、く、義、理、の、違、ふ、と、い、ふ、筆、の、次、ひ、に、二、つ、ら、水、滸、西、遊、を、在、を、於、の、如、く、像、と、如、と、
 似、の、ど、く、則、と、唯、の、ど、く、讀、ま、る、其、文、法、則、也、切、角、の、あ、む、似、を、讀、て、如、と、ま、る、似、飛、渡、の、
 則、と、讀、て、唯、の、ど、く、ま、る、不、則、一、日、の、涯、の、像、と、讀、て、如、と、ま、る、も、如、之、と、い、ふ、用、ひ、を、況、教、の、轉

是、叫、み、做、る、尿、の、轉、と、鳥、お、る、底、の、轉、と、地、做、り、又、轉、と、的、ま、る、一、朝、の、
 解、盡、と、も、あ、る、我、大、皇、國、の、邈、古、の、久、々、と、い、言、魂、と、宗、と、い、ふ、文、字、の、製、度、を、
 應、神、天、皇、の、御、時、初、て、漢、字、と、傳、へ、る、後、の、世、に、至、り、人、の、詞、け、り、源、氏、物、語、を、
 立、目、訓、と、作、り、文、お、れ、後、々、和、漢、駁、難、の、文、章、の、必、り、を、成、る、勢、也、太平、記、を、
 一、轉、し、て、假、名、文、の、唐、山、の、俗、語、を、諸、記、の、隨、取、用、ひ、也、余、が、多、世、文、の、國、学、及、漢、学、の、博
 士、達、倘、も、眼、小、觸、る、も、あ、る、駁、難、と、嘲、噓、と、云、ふ、に、は、べ、く、遮、其、唐、山、俗、語、を、
 綴、り、る、書、是、正文、の、方、言、也、あ、る、が、れ、用、ひ、を、又、儒、書、方、書、佛、教、の、正文、を、著、る、也、
 中、小、俗、語、の、二、程、全、書、朱、子、語、類、俗、語、と、綴、り、奇、功、新、事、傷、寒、條、辨、虛、堂、
 録、光、明、藏、の、類、也、先、輩、既、の、辨、の、信、れ、彼、が、文、華、も、言、魂、の、資、を、借、り、
 文、を、成、す、如、意、を、知、亦、大、皇、國、の、文、章、の、和、漢、雅、俗、今、古、の、差、別、あり、然、る、今、文、場、
 遊、ぶ、者、孰、も、貫、通、せ、り、か、了、と、も、難、と、い、ふ、意、亦、古、昔、の、草、子、物、語、竹、株、宇、通、保、源、氏

物語まじり。作者勉て。詞をまじりて撰て。綴れる。必是當時大官人の常語。方言。言を随ふ。載る。れ。古言の。多。鄙俗を。且宮嬪の詞。雅俗。任。及真跡の草結。才子才女の。品珠。能文の。所為。後世和文の。山手。借。其。草子。物語。此も俗語。綴れる。思。和漢を。文異。情態。寫。趣。盡。俗語。成。難。彼我。一。然。今此。俚言俗語。轉訛。侏離。甚。儘文。余。駁雜。文。侏離。鄙俗。道。近世建部。綾。足。西山物語。及本朝水滸傳。就。本朝水滸傳。趣。淨瑠。理。本。似。條。今。俗語。木。竹。接。且。時。好。稱。二。編。果。又。村田。翁。筑。志。船。物。語。今。古。奇。觀。第。二。十。六。卷。祭。小。姐。忍。辱。報。雙。又。同。皇。國。故。事。小。翻。案。古。言。之。然。能。文。所。為。必。初。學。之。為。資。助。惜。翻。案。半。分。翁。

筆蹟を易あ。人々續。果。吾一知音。吟。其。國。學。者。流。且。和。漢。の。釋。史。之。愛。餘。力。わ。俗。の。看。官。の。書。を。知。る。の。後。の。廣。く。勸。懲。を。旨。と。書。讀。む。好。む。世。の。婦。幼。も。讀。む。余。が。如。き。好。む。人。釋。官。野。無。の。事。是。と。好。む。思。ふ。本。傳。結。局。遠。く。な。り。て。己。ん。の。筆。墨。費。て。百。年。以。後。の。知。音。と。俟。ぶ。今。も。後。の。朝。議。論。を。解。る。と。丁。酉。の。秋。八。月。念。六。日。東。園。黃。白。の。木。犀。花。額。郁。南。檐。の。下。著。者。の。著。作。堂。癡。老。

衰笠漁隱



附て云。前板第九輯下帙の上。も。卷。毎。校。訂。の。送。漏。あ。り。書。賈。發。販。せ。後。を。足。出。因。左。の。録。送。忘。備。ふ。○前板第九輯下帙の上。五卷重訂追録。左。の。續。記。を。駢。一。す。べ。

南總里見八犬傳第九輯下套中摠目錄 四九集 第

卷第 第二百二十六回

假捕使三路行兵 義兄弟兩林懲惡

十九 卷第 第二百二十七回

大庵厄親兵衛喪伴 石菩薩前信乃悟應報

二十 卷第 第二百二十八回

犬士露宿迎追隊 老僧褰袂示真罰

卷第 第二百二十九回

忠僕事死靈佛起本 孝子去京傳燈法脈

卷第 第二百三十回

里見侯白濱葬旅 大法師穗北果客情

二十一 卷第 第二百三十一回

八行靈玉光增良主 九歲神童氏請花營

二十二 卷第 第二百三十二回

金碗無後更有後 姥雪失望反遂望

二十三 卷第 第二百三十三回

洪容船水冤鬼沽酒 沒波底海龍王刺仁

卷第 第二百三十四回

苛子海中與保探千金 蕃山窮難照文逢一將

卷第 第二百三十五回

渥美浦便船送紀二六 管領邸禍鬼抑親兵衛

八犬傳第九輯下套中摠目錄終下套下近刻當至大團圓焉





汝是西濱漏網魚
豈知東海有余且

今純友の事
查勘大いん

海龍去
脩羅五郎

八代傳九郎卷十九

六

大坂二年



棄却顯職
富貴聚身
人間孝子
釋氏忠臣
替僧正影西

六道山
能化院
教主寺
本堂

瀨美郡領
隣尾伊近

權僧正影西

八代傳九郎卷十九

大坂二年

第九輯 十二之十四 摺目録 九丁右の同 九丁右の同 老温 温るる當ふ

媼 五丁左の竹塚 同

同 王 主 同 犢鼻禪 禪 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

○十六の巻 同

○十七の巻 同

○十八の巻 同

又按 第九輯上帙の自序 山中狼之介とあり 暗記の失 山中 當品河作るべし 又

第五輯より処々ある上野の白井の土呼あるるより 越後人物 忠告され 然井助

字 假名違 本文 白井の偏訓 ありとある 井と活字と入れあはせるべし 前板重訂抄録終

南總里見八犬傳第九輯卷之十九 東都 曲亭主人編次

南總里見八犬傳第九輯卷之十九

東都 曲亭主人編次

第九輯 假捕使云路ふ兵を行る

復説堅名 司經 稜根 生野 飛雁 太素 頼 嚮 齋 逸 匹 寺 の 客 殿 也 住持 德

用が意見 儘一七 長城 惴利 們と 三 隊 分 別 緝捕 の 計 議 違 ぶ 這 隊 と 則

寺の 惡僧 陸 釋 坊 堅 削 と 先 鋒 と 後 僧 俗 二 百 五 十 名 大 庵 と 投 て 推 寄 來 る

既 小 と 同 遠 く ぬ ぬ 程 正 去 向 の 茂 林 中 黒 烟 立 升 り て 猛 火 の 光 見 れ

けり 當 下 堅 削 眼 早 く 原 來 那 奴 們 幾 の 間 欲 這 方 の 機 密 を 猜 し け ん や 兵 每 那

又 目 今 庵 を 自 燒 して 他 郷 走 る ぬ ん ぬ 捕 手 逃 げ 皆 急 死 ね と 聲 高 々 罵 示 して 連 れ ね ね 程 一 も あ る 憶 る ぬ ぬ 東 の 茂 林 一 筋 の 匂 と 寫 志 旗 三 四

梳樹の間在り。曇勝も四月の天の雲餘波を吹拂ふ風のまへに閃光を思ひかけ
 敵も亦二隊別れ。光景に堅削疑訝りて。隊勢を制めて。左右を找まむ。後陣を等て意見と問ふ。經稜素頼も亦これを相て。噪はるる氣色もあはれむ。か
 かりて。經稜の馬上堅削と云ふ。御坊も亦狐疑をゆる。那首の旗の元も
 大いけり。聚合一奴。這方の軍議を觀着ん。苦
 多隨の拙策の。那の奇兵の術を。東の茂林も。敵居を籠れり。思はせて。寄隊を
 住めて。開かぬ。落延んと計りけり。鳥計多し。と冷笑へ。素頼然る。と點頭て
 其の議定違ふ。非除、大の施主のめが。安房の里見の家臣でも。十餘名あ
 過る。由縁もあぬ。這地も。火急の難義あれども。誰と憑て。加勢おせんや。
 とのへ。經稜然りと。推量明白。上へ。東の要る。似れども。萬一の與る。堅削
 御坊。東へ向ふ。敵の虚実を。撈り。變猜を。如く。敵あ。と。隊兵を。這方。找めて。

庵の邊に在り。敵の尚退る。戦ひ剛く。横鎗を入。その必勝の拵。さうんといを
 堅削。ちり。听て。その議。あ。師父の軍議。任せ。推僧先鋒。找。敵を
 らんと思。東の茂林。立別れて。向ん。本意。と。推辞。經稜焦燥。開
 亦。益の。議論。今。這里。役不足。と。時を。授。敵。皆。思。隨。逃。亡。和
 僧。亦。思。酒家。東。向。然。と。勢。要。我。伴。當。列。卒。每。莊
 客。們。二。が。一。相。別。ま。從。い。と。辭。急。迫。言。示。猛。可。二。隊。引。け。東。馬。を
 早。れ。始。り。戦。ひ。を。好。ま。け。莊。客。們。敵。を。ん。と。東。の。茂。林。を。得。意。を
 と。思。定。の。數。錯。て。我。の。經。稜。後。者。の。堅。削。が。隊。に。隸。て。來。る。子。院
 屬。寺。の。法。師。武。者。亦。二。の。足。を。踏。も。有。て。我。們。出。家。る。今。剛。敵。と。戦。て。分。捕
 功。名。を。れ。武。名。と。傳。子。孫。の。所。領。の。主。も。あ。可。惜。命。を。的。に。敵。あ
 る。方。向。ん。東。へ。と。一。人。が。領。く。甲。小。耳。に。亦。傳。へ。經。稜。が。

馬の尻趕ふ夥計別素頼堅削聲苛きて鈍や兵毎少違へ然し一要害
 東の茂林へ若們もてふくこと欲這方へ來むと喚れ素頼が列卒伴當們の聲を
 資て喚林れも少ぬ態して咸歩早ふる者も多り一素頼も堅削も采れ
 一要害時長觀て在りそ中堅削の肚裏も思やう。咱一朝の怒りも乘しく法敵
 たる、大們を捕捕も思ひつ。既先鋒の頭人たる今憶も夥計別素頼
 勢寡くもふけ。這隊の拵心許す。我も東へ適ふ不如と主意も猶只管
 焦燥する面色も素頼も向いてたの如く莊客們も我黨も二少違へ
 けん大なる隊を離れん軍令當困似て不便に拙僧も趕鬼て皆悉領て
 來てん身の徐馬も找め頭陀が庵に推寄せ又拙僧程もかう來て後陣も續け
 新隊もして相資いんとふ素頼領てとて急ぎへ。趕鬼と答る間堅削の眉尖刀
 腕腋も引着て飛が像く走去けり。介程も素頼堅削も自送る。我も必中在りける。

東のさか処々木榛樹嫩杉ヨれれ往くも還るもアスとて筆を久く身隨心のと焦
 燥て左も右も思惟る隊兵寡くもりかど尚九十名の這里も在り并堅削們が還
 るも急ぎ處々々時を程も躬方の虚実を敵も知れて頭陀們の遠く逃亡せん
 我も怯れりとも。經稜も又惴利も笑れ敵も他御の旅客も骨ある奴們の七八名狹
 十名少過ざるを我隊兵も比しとて。又實本の知れる敵も克むとて。思ふ
 法隊兵們も甚憊々たる。大庵へ推寄る。折もも滅敵の自詰計烟
 史迷ふもわづれ、大の庵へ近着程も早一町止む。是より。能化院の目星額長
 老の逸足寺の鬼徒と城の士卒と和解て。事も扱んと九個の鐵弟を相俱して走る前
 面より來る。素頼も位とて。那奴們の問でも。大を幫助し。先驢も法會と
 果して還るも遣るも逃しを捕捕れ一個も漏れず。劇に下知も逸足寺の惡僧們的
 皆逸早く。美りぬと答も果士卒も先も突然と走の鬼れる。執鳥鳥の勢も當る。

ものふれ星額長老。徒弟們的駭慌る聲戰々。あま人々理不盡。喘と疎鶻
 るもあひそふりあ。と叫ぶも耳の中被ぞ敷倒。或は蹴返。突跌俯。一個も餘さ
 るも。捕索被て牽立る用場勇。かければ素頼親の懼ひて。法師連で
 かり。その賊僧們を這頭置。大門を搦捕る折。脚も當縁ある。今來一方
 牽退けて。西之人とより衛りぬ由断。とる復され。とる不惡僧們ある。牽立る
 と欲する。星額師弟の云云と勸解て。毫も身と起さ。罵の怒る惡僧。每果一
 き。十個の法師を一個々々。搦捕む。脅力自慢。十個の肩へ米苞の像くら。載り被
 擔連て。舊路へ。搦聲揃て。とる。當下根生野素頼の隊勢。找る樹核の間
 より。庵頭近着て。前面と位。とる。尚燃残る猛火。背十回許。前出で
 雙立る勇士あり。是則別人。道即毛野の二天士。左右の從。兩個の艱兵も
 各持る。桿棒を或は突立。腹被。とる。來れる者。是誰や。と問せ。果は根生野素頼

騎馬苛め。聲も尖鋭く。若們。笠礼鳥許の僧俗。近曾這頭。小庵と締びく。嘉
 吉のむり。戰殺ある。列將士卒の菩提の與。と人の憑ぬ。念佛三昧法會の今日。及ぶ
 まで。圍の守。結城殿の云云と請稟。とる。免許と兼。とる。況這地の大。利。逸足寺
 その美と告。衆徒の封助と借。とる。貧民を兒。施。恩義を示。奇怪を
 ぶ。意。是若們。隣圍の間。謀見。歎。介。謀叛の奸賊。とる。搦捕て。領て。ま。あ。
 當館の御。証。依。根生野飛雁。太素頼。が。ま。之。似。而非。頭陀。大。那。里。在。今。日。捕
 隊の頭人。只我一隊。の。を。我。同。僚。の。勇。士。長。城。枕。之。衆。利。堅。名。衆。司。經。徒。們。
 隊兵。並。逸。足。寺。の。加。勢。の。大。衆。と。從。て。八。隅。隈。り。捕。網。され。水。も。漏。さ。火。も。焼。せ。然。は
 大。と。資。け。る。十。個。の。賣。僧。の。れ。ら。の。り。と。知。り。欲。猜。せ。欲。逃。ん。と。我。馬。前。の。撞。見
 去。され。一個。も。漏。さ。搦。捕。り。て。後。陣。在。の。先。途。と。知。り。一個。も。送。る。と。馬。前。の。跪。伏。し
 索。被。れ。と。喚。れ。道。節。呵。々。と。冷。笑。ひ。て。慙。念。入。る。長。談。義。の。今。り。答。ん。大。人。の。氣。を

けれど感ひて釋んよく听ね抑先亡追薦の念佛供養の願主なる、大法師の慈悲を以て
 素より名利の與るるぬ、當城主へ許て免許を請ふもの、况這地の寺院小告、助
 けと借りて何かせし且兼愛して普く濟ふ施む佛の慈悲なる疑ふるあらず、約
 莫今番の法遊、和郎們が先君氏朝主の菩提の由り、これに飲み、筋あり、余罪を
 る後、あらぬと詰れば毛野も語を續て既、木捕られと云く、能化院の長老師弟、大
 法師の舊識、るねと善く與まる心、昨今來會するのみ、那身犯せる罪を、逃
 も躲れもせざらん、非道の索不被らるとも、我々を、一列、お思ひ、後悔あり、道節
 聲、ゆり立て、唯、那十個の僧の、と、大庵主も、我黨も、罪せざる、な、る、も、來意
 知、り、欲、さ、庵主の、伴、小、立、ど、と、姑、且、和、郎、們、と、も、あ、り、け、是、の、兩、個、と、誰、と、思、ふ、安
 房の、里、見、の、由、縁、ある、八、大、士、の、そ、の、中、で、余、る、者、あり、と、知、れる、他、則、大、阪、毛、野、我、大、山
 道、節、の、信、の、解、ても、听、れ、ざ、ら、う、箭、採、る、身、の、常、態、を、引、返、さ、ぬ、武、士、の、意、地、本、事、と

足せん争何とぞと理の諍る、兩個の犬士の然、も、雄々、し、勢、も、素、頼、計、較、初、小、違、ひ、て、侮
 る、思、ひ、も、身、勢、も、負、と、毫、も、猶、豫、せ、ぬ、噫、嗚、兒、們、が、暗、に、辯、舌、人、を、感、念、さ、す、も
 若、們、の、是、里、見、の、與、の、事、と、法、會、假、托、て、竊、當、城、の、虚、実、を、観、情、使、さ、す、う、り、言、
 語、の、端、も、頭、れ、ら、兵、每、捕、ま、と、劇、多、く、隊、勢、と、找、れ、群、立、散、動、て、爪、を、張、る、猫、も
 釋、氏、も、共、侶、小、脚、誑、と、喚、り、叫、び、競、ひ、鬼、と、道、節、毛、野、兩、個、の、野、兵、も、棒、と、打、拂
 うち、拂、ひ、亭、の、寄、せ、を、難、倒、も、修、煉、不、遂、間、ある、と、な、り、け、寄、隊、の、身、の、あ、り、さ、め、り、め、り
 噪、ひ、て、逃、ん、ま、素、頼、あ、れ、の、駭、慌、て、道、節、毛、野、と、射、て、仆、き、ん、思、ふ、箭、坪、と、量、り、う、り、箭
 刺、て、垂、絞、る、那、時、遅、い、這、時、速、い、後、方、一、個、の、犬、士、あり、兩、個、の、野、兵、を、從、て、樹、蔭、と、お、す
 聲、高、く、根、生、野、素、頼、を、礼、を、八、大、士、の、隨、一、人、大、村、大、角、の、小、在、り、下、馬、を、命、を、乞、は
 ち、と、罵、り、さ、ら、白、檀、の、棒、を、馬、の、後、脚、を、撥、刺、哩、托、地、と、難、折、け、馬、一、聲、嘶、ぬ、あ、り、蛇
 屏、風、と、倒、さ、像、く、主、共、侶、俯、累、り、て、死、活、知、ら、ず、平、張、け、り、話、分、兩、頭、余、程、小



大角一名
棒人馬を
倒す



堅名衆司經稜の樹間の敵の旗をえたる東の茂林へ推寄て肇て後方よりこれに
 御向定めり人数ふたがひて従隊兵多かりければ其甚麻と訝りてその美を向き累
 程の堅削も亦走りあつ喘を定め找寄りて經稜の報るを御向の言宣を
 定めて云がごとく宣ひしと兵毎が誤認て莊客們は法師武者さきより従ひ來おければ
 云がごとく這隊よあり拙僧他們を吸返さんとて躬て追蒐ひしよん馬の最早け
 るの追趕着て這里は到り不便ぶうもあねども今領て還らば六日の昔蒲那
 里の期あひさかさんこの此這頭の敵と撈りて旗のさきよの言入數り根生野
 主の後勤の勿論捕漏されて逃る趕る好獲もその拙僧を伴仕んとの談小
 儘せぬもやと已が怯を塗秘ま舌も旋る熟脂刷毛も吐く巧言と信容る經稜
 屢點頭て然し這里より返る遅り我主意も其頭も過ぎ素頼小勢もさぬといふも
 百個の隊兵あり且他武藝勇悍我と惴利們伯仲も不賞の擗はさくもあねい

那里の心安かり先當要の這頭敵の虚実を撈る存りと思へも争何せ樵夫の
 加ふ路のそで敏希の極る松柏の枝と交ぬ処もなれば騎馬の進退難義多し御坊は先
 鋒の頭人なれ勇僧まれ猛卒まれ五七名に従て口け入て隈もさし涉獵の敵は有
 意と知らん那奴們倘切所を負て看籠りてあるを驅出して戦ふも御坊們都て身
 單の功名を貪りて陽走多敵趕て誰引出まを妙とせまの美をる術心ひそし屬
 是堅削の好しうらぬ所なれども今ゆる推辭むとせぬまをさるるゆゆと答て躬て退
 びて心鬼相似る悪僧五六名と伴いて各持る眉大刀で去向鬱悒の樹の枝を掻分け
 亦推抗の敵と索ひて震くも深松林を入る。徳而堅名經稜の隊勢を分ちり那
 這る樹の蔭に埋伏させて馬を駐めて堅削們の敵と惹寄りてその美を向き累
 まで影をみせし且訝り且焦燥て只得馬より下立り我みざる涉獵んとて驟一置は
 隊兵を感召し意見を示して馬を牽し前後不立して入り茂林の鳥路熊徑

苔滑小樹下闇くて。逆る小逆り易く。左右へ雨三町。未ぬらと思程。其頭は樹の
 下小人ありて。後よ人々救を助け。と叫ぶ。経稜も隊兵も。噫と云り。小威駭はく。
 現れ。る。是。別。人。を。も。御。高。小。斥。候。遣。ら。れ。る。堅。削。並。同。伴。の。法。師。武。者。さ。五。六。名。藤
 蔓。と。結。紐。ら。れ。て。一。個。の。漏。れ。老。樹。の。幹。小。藤。着。ら。れ。て。あ。り。ふ。の。敬。馬。く。經。稜。は。し。ん。
 隊。兵。都。て。膽。を。潰。し。て。故。を。問。ふ。評。ま。る。あ。り。て。拍。擇。あ。り。聚。合。噪。く。經。稜。急。小。叱。禁
 め。兵。毎。鳥。嶺。多。口。を。暗。く。先。那。索。と。解。捐。よ。い。れ。て。大。家。阿。と。心。て。間。近。く。立。る。隊。兵。們
 が。腰。を。帶。る。七。首。と。も。わ。く。抜。て。堅。削。們。の。索。と。截。棄。ん。と。甘。程。小。前。後。の。樹。陰。小。敵。あ。り。て。
 吐。と。賜。る。関。の。聲。仰。响。は。て。ま。少。と。知。る。突。然。と。て。頭。れ。ぬ。這。里。も。二。個。の。大。士。の。武。者。聲。
 大。川。莊。小。あ。り。大。田。小。文。吾。大。銅。現。八。慈。在。り。あ。小。在。り。と。名。告。被。る。武。威。胆。勇。の。あ。り。小
 後。小。親。兵。們。の。繞。小。四。名。過。され。も。士。卒。一。致。の。進。退。烈。く。面。頭。れ。背。小。靡。け。短。兵。急。急。
 拉。ぐ。奮。勇。正。小。虎。を。て。羊。と。駭。る。小。異。る。ゆ。れ。始。り。て。聞。戦。心。あ。り。莊。客。們。の。い。ま。

近く。小。找。ま。き。在。り。小。目。今。敵。の。関。の。聲。と。響。く。より。呀。々と。驚。怕。れ。て。聲。を。衝。て。逃。れ。誰。か
 駭。慌。さ。る。逆。走。寺。の。悪。僧。們。の。あ。り。て。經。稜。が。伴。當。列。卒。之。軍。旅。は。熟。さ。る。者。の。ま。れ。は。
 敵。の。身。少。も。さ。る。皆。只。命。を。免。れ。ん。と。樹。間。を。潜。り。路。を。求。め。て。走。り。あ。む。樹。の。根。小。跌。死。
 或。背。小。續。く。者。不。壓。倒。され。蹂。躪。ら。れ。て。刺。二。天。士。の。親。兵。們。小。生。拘。る。も。ま。る。け。の。开。中。小。經
 稜。の。走。る。躬。方。と。雲。辱。し。て。復。せ。戻。せ。と。喚。り。憶。も。退。後。ま。り。現。八。横。さ。る。小。衝。と。寄。て。
 刃。下。と。打。落。し。組。も。中。一。中。て。三。間。あ。り。投。り。小。經。稜。の。老。樹。の。株。小。膽。と。打。せ。阿。と。叫。び。て。
 又。起。ぐ。も。あ。り。と。大。士。の。親。兵。們。走。蒐。り。て。索。と。被。て。牽。居。け。登。時。莊。小。文。吾。と。
 現。八。今。不。下。め。敵。卷。法。の。精。妙。さ。る。感。賞。俱。小。經。稜。を。責。り。さ。る。や。れ。鳥。嶺。の。小。人。悔。
 か。さ。雨。の。結。城。小。由。緒。あ。り。家。臣。親。の。忠。死。の。賞。と。重。職。美。祿。を。示。さ。る。放。辟。邪。侵。小
 多。理。義。を。思。ひ。ぬ。心。術。相。似。る。同。僚。の。侮。人。根。生。野。飛。雁。太。素。頼。長。城。枕。之。小。端。利。と
 共。侶。小。逸。走。寺。の。住。持。德。用。を。徒。弟。堅。削。們。の。哄。誘。さ。れ。て。大。庵。主。念。佛。供。養。非。義。

と媚て君命と偽倡へ僧俗烏合の多人數めて我々さ推並て搦捕ま欲りぬ。計較の趣人の告ふ知らざる今又悪僧堅削們的招きてその詳を聞きし。僧們亦少與不介候を漫は這頭へ來まける。我々既し搦捕て爾等も久しからず。及ぶとも大庵主の念佛供養の若們が先君先父の菩提由も干れ相欺びて一臂の力も資んとてそめいへば。その告ぎりも罪とて。雙敵の思ひを存す抑何等の心をも忠申あむ。孝も忠も眞訓越不觀面する其身々々の亡君亡父不叛出するも。其恨も陳ぶ。より其甚麼をいふぞと。送代責問へも経稜の折傷の痛楚は堪らば。當下堅削們的悪僧俱し蟬聲戰して大士連と。允さる。我々の住持徳用の指揮に依りて已む。當隊よ加ひて。只懲さんと。眞実大人を撃捕を欲す。悪心いひ。勸解れ。亦経稜の伴當列卒の生拘れ。威跪額を擡て異口同様に陳き。喃刀衿們。召せ。小可毎。這回の計較。其宅も干らむ。情申ふ。知む。ひを主

命られ。是も非も。相従て。賢查。其か。陪話。連り。口説く。三士。杉木の株。尻に。杖。談。大田大飼。堅削們。招く。兇徒。三方。事。分。明。只。心。許。大庵主。安。危。供。養。塔。所。快。立。大。山。大。阪。大。村。們。一。隊。做。庵。主。の。跡。趕。大。塚。力。勸。今。の。急。救。口。是。の。小。文。吾。點。頭。て。勿。論。の。這。生。口。們。を。現。八。守。あ。も。商。議。及。一。個。々。々。首。を。刎。て。後。安。く。せ。む。あ。逃。る。奴。們。が。被。る。索。と。解。ん。然。で。盜。糧。と。償。仇。刃。と。借。ま。似。て。是。福。と。貽。ま。思。ひ。の。勇。む。壯。介。推。林。也。否。如。右。せん。易。け。れ。大。庵。主。の。灰。大。江。親。兵。衛。の。逆。將。素。藤。と。征。折。兇。徒。二。個。殺。せ。全。勝。の。天。功。あり。然。る。這。生。拘。們。を。殺。し。庵。主。の。誨。違。ん。但。經。稜。と。惡。僧。們。を。供。養。塔。所。小。牽。ゆ。大。山。大。阪。大。村。們。示。く。衆。議。小。儘。る。月。見。術。あ。ん。か。と。諭。現。八。感。服。て。其。議。是。小。精

妙約莫今番の閉戦、他們が妙忌の奸虐の我より做るる事、今一朝の怒も棄し、
 殺さ、他們が主君を結城氏と怨と結、然るに里見殿の兄為の宜しう、思ひ、我ら
 から短慮の鳴呼、衝つて、諍返、他事、ければ、莊小文吾再議、及び、四個の野兵、
 あり、經稜、堅削、們的、生口、牽、立、て、い、ま、ま、ま、經稜、の、撲、傷、の、惱、て、一、歩、も、運、び
 る、堅削、も、亦、生、拘、れ、折、片、足、を、折、れ、る、故、も、立、て、輒、と、い、へ、御、回、經稜、が、牽、せ、る、馬
 も、既、不、分、捕、せ、れ、て、敷、合、て、樹、下、ま、あ、り、て、隨、即、件、の、僧、俗、と、その、馬、も、ち、棄、せ、て、鞍、の、膝、附、る
 と、ま、莊、人、們、の、これ、を、二、三、野、兵、が、下、知、ま、さ、う、ま、の、餘、の、生、口、も、れ、も、皆、没、の、雜、兵、の、い、の
 俵、中、垂、下、も、ん、但、那、俵、の、閣、も、た、御、高、樹、間、の、植、さ、せ、る、淫、般、の、傷、の、播、け、の、ま、く、採、却
 きて、燔、垂、下、の、野、兵、們、の、あ、り、て、儀、の、ど、く、ふ、做、り、あ、け、の、有、徳、が、莊、小、文、吾、現、八、の、經稜
 堅削、も、ち、棄、せ、る、馬、を、真、先、ま、あ、ま、せ、て、ま、の、餘、生、口、の、惡、僧、と、野、兵、が、牽、せ、路、を、い、の、ま、
 塔、所、の、茂、林、の、か、の、ま、け、る、程、の、道、節、毛、野、大、角、の、根、生、野、飛、雁、太、素、頼、と、その、隊、の、僧、俗、幾、名

欲、く、生、拘、さ、け、茂、林、の、樹、の、幹、の、繫、り、て、莊、人、們、の、二、三、士、を、ま、く、在、り、て、送、り、
 聞、戦、の、趣、の、箇、様、々、と、解、示、し、て、俱、小、大、局、の、入、り、ま、け、る、井、が、中、の、道、節、が、い、ま、う、假、討、の、
 頭、人、を、素、頼、と、經稜、の、大、村、大、飼、の、生、拘、ら、れ、て、這、頭、の、敵、も、似、れ、る、も、生、拘、毎、と、拷、問、を、
 他們、が、密、策、と、听、ゆる、小、尚、一、隊、の、兇、徒、あり、庵、主、と、擲、捕、を、中、途、に、埋、伏、し、て、い、へ、曾、安
 々、と、る、所、の、和、殿、們、の、ま、を、ま、ま、と、急、迫、し、向、ひ、莊、人、を、登、り、然、と、よ、その、ま、れ、我、們、の、亦、
 堅、削、が、首、伏、せ、既、不、知、れ、然、も、他們、を、誅、戮、せ、ま、の、処、ま、で、牽、り、て、來、ぬ、大、庵、主、の、教、を、
 守、り、て、衆、議、の、任、せ、ん、と、思、ひ、ま、る、に、小、文、吾、現、八、も、亦、云、と、解、示、し、毛、野、の、情、ら、ち、听、て、那、隊、の、
 頭、人、長、城、枕、之、人、端、利、の、經稜、素、頼、と、同、下、か、で、二、百、名、の、野、兵、あり、是、が、加、り、逸、足、寺、の、住、
 持、徳、用、の、家、が、似、け、る、武、藝、も、長、く、力、飽、も、剛、と、ま、い、悔、難、く、端、利、の、隊、
 兵、が、持、つ、る、准、備、の、神、器、將、軍、も、ろ、と、生、口、毎、が、招、か、れ、て、これ、を、思、ひ、ま、は、是、の、勁、敵、之、大、塚、
 素、頼、の、智、勇、が、秀、て、よ、敵、と、ま、あ、り、足、る、と、い、ふ、と、失、る、と、ま、い、又、那、星、額、長、老、師、弟、の、御、高、

素頼すねのり撞見つづみとて、搦捕のりとりされしに、剛才きんざい躬方みづかたの親兵おやへいをとり、其頭そのかぶと曲まがりて、素頼すねのりを、
 那黑なぐろ牽ひれけり。事の理ことわり折ひゆ。這宗徒このむねとの生口のうまと、那十個そのじゅうこの法師のほうし達たちと、交日まじり勿なし
 便たやすり宜よろし。然しかども、武威ぶゐと示しせし、素頼すねのり經つと稜りやう堅けん削せつ們ん、惡僧あくそう、殊こと更さら頭あたま立たし、
 許ゆるさざる。那黑なぐろも、牽ひりて、大塚おほづか蛸崎たかざき燒や雪ゆき、力ちからと、助たすけ、庵主いんしゆと、守まも護ごせん、皆みな
 立たち。立たちといふ、大角おほかく一ひと霎しや時ときと、推おし禁しんめ、御ご不ふ咱ざん們ん、馬うま共とも侶りよ、難がた儀ぎ、生なま拘かる。那根なこん生なま
 野の素す頼ねのり、馬うま不ふ折ひれ、折ひより、腰こし立たし。その馬うまも、亦また後脚あごのあし痺しびる。牽ひりて、亦また不ふ便べん。經つと稜りやう堅けん
 削せつと、共とも侶りよ、孤ひとり馬うま、うら、駈かせん。その大おほ家け異い議ぎも、親おや兵へい、不ふ合あ合あ、
 膝ひざは、駈かして、牽ひ出です。その為ため、体ていを、うら、れ、俗よふ、二ふた貌なり荒あ神かみの、輕かろ尻しり、草くさ枕まくら、旅たび路ぢ
 いそ、六む大たい士し、去い向むか、甚し麻まと、安やすく、ぬ。武井ぶゐの、驛えき路ぢ、投なげ、人ひと、あ、ぬ、杖つゑ原はら、其その里さと、欣よろこと
 ち、捷あや徑みちを、求もとめ、俱とも、い、そ、け、り。誠まことや、時とき、運うん、厚こう、薄はく、の、事こと、幸さい、あ、不ふ幸さい、あり、大おほ
 俱とも、い、る、信しん乃の們ん、安あん危き、下した、の、回まわ、具ぐ、を、係かへり。

第百十七回 大庵の厄の親兵衛伴を喪ふ 石菩薩の前信乃應報を悟る

單表ひと犬塚いぬづか信しん乃の成なり考かう、道節みちせつ毛野けの莊ぢやう、小文せうぶん吾ご現げん、大角おほかく們んの、六む大たい士し、先まと、蛸崎たかざき主しゆ僕べい、燒や雪ゆき代だい
 四し郎らう們んと、共とも侶りよ、大おほ法ぽう師し、相あ從じゆ、上かみ總そう路ぢ、投なげ、既すで、不ふ結むす城ぢやうの、町まちを、離はなれ、二ふた里り半はん、あ、武
 井ぶゐの、驛えきを、ち、過すり、杖つゑと、諸しよ川せんの、方かた、更さら、程ほど、當あた時とき、這こ頭あたま、岐まが川せん、あ、一ひと川せん、許ゆる我われ、川せん、侯こう、相あ沃わく、又また
 一ひと川せん、仁にん運うん、木き家け部ぶ、塚づか、あ、追おひ、利り根こん、河か、合あ流りゆう、せ、あ、と、土つち俗よ、是こゝを、左ひだり右みぎ川せん、と、喚こゝろ、做しよ、今いま
 這こ川せん、あ、と、る、れ、看み官くわん、訝ぎやう、思おもふ、あ、ん、渡わた、莫な水みづ路ぢ、の、同どう、と、今いま、と、そ、の、昔むかし、其その、葉は、も、做しよ、
 船ふね、切き、て、送おく、る、劍けん、を、求もとめ、る、異い、る、陵りやう、墓ぼ、鋤あ、れ、て、田い、と、る、わ、の、蒼あは、田た、没ぼつ、と、海うみ、不ふ、做しよ、世よ、代だい、の、轉てん、變へん、の、
 下した、然しか、も、這こ、左ひだり右みぎ川せん、の、分ぶん、久く、長ちやう、五ご、間ま、許ゆる、地ぢ、橋はし、あ、の、け、の、宿しゆく、上かみ、流りゆう、不ふ、潮しほ、て、結むす、城ぢやう、の、城ぢやう、下した、へ、來き、る、者もの、必かならず
 る、橋はし、を、渡わた、る、と、下した、間ま、話わ、休やす、題だい、却かへ、説せつ、信しん、乃の、照てい、文ぶん、代だい、四し郎らう、の、九く、個こ、の、伴ばん、當あた、共とも、侶りよ、大おほ、法ぽう、師し、の、前まへ、後ご、小せう、立た
 武ぶ、井ぶゐ、の、驛えき、を、ち、過す、り、左ひだり右みぎ川せん、の、上かみ、來き、る、程ほど、小せう、塘たう、隈か、を、柱はしら、と、並なら、欄らん、の、間ま、の、居ゐ、る、隊たい、勢せい、を、後ご、へ、走は

出て来る騎馬の武士是則別人の長城杭之助備利去向を尋ね殺害せし隊の親兵六七十
 名御説々々と喚びて各々を振晃せし十の電光目と射る如く前後に争ふ緝捕の勢は猛々
 しくあつたれば、大法師の先立する照文も代四郎も今倒れ一言半句の回答の暇もあらず何事ぞと
 なる小組の相打ち修煉の拵に劣らざる優さ投退す防げも捕隊の然りも爰より鬼の又入
 敷るれ物もせせ然照文若黨紀三六並八個の伴當は怯れるあらずも武勇捷れ者なる
 防に難く捷伏せられて送る楯捕れりの中、大法師の馳せり一季基王の送骨と矢りと
 の心小拭て聲も乱れぬ降魔の經文誦拭々錫杖を以て防ぎ甲斐ある武藝の妙要昔の餘波著
 れて毫の透向あざれば敵の親兵を闘ふ輒捕はざるも備利馬上の焦燥て罵り又励く連
 隊勢を打ちめり有徳程小犬塚信乃の趕來敵のありとせん豫思は由断せし大法師と
 相距る約一町許りて殿へ來りける患の後あざりて緝捕の勁敵前より一騎の頭人居るの
 親兵們、大代四郎照文主僕と推捕綱と闘ふと云ふの慌て謀る心息あらず那奴們の豫

結城の三右一人之逸足寺の住持を補助し乱妨を及ぼさん先那騎馬の頭人を撃つは
 殘兵を戦ぎて退け易しと勝負を構る武界の即智のさる路傍の舊稻塚の小杉本は是れ
 竟と抜合と腋挟る奮然と走り向らせ程のあざりて這里の樹蔭に又敵あて頭を法師
 武者の勢約莫二百許の内中一個の隊長の回もあざりて這里逸足寺の住持徳用を拵袖法
 衣の袈裟頭巾尚已時可る白衣の下身甲を鐵の鹿杖の重六十五斤を突立させ先找して
 隊勢と俱れ失々と去向の路を断塞し信乃と仇と疾視て四下は响く聲も矢銳く若人胆鳥の
 艦心見事と法會假托て當城の虚実を願ひ恩と窮民を施して這地に住る我寺を傾けんと欲し
 る伎倆を誰う知ざる國守の與奸賊を當寺の爲法敵の故に我忍辱の鎧を脱て弥陀利
 劍を異るる這鹿杖を携へり只一打往生を噫法師們の温もぬ大刀佩りてを憚るゆ後
 宙を吊りてのあざりて喚り考れし隊の惡僧道人共侶の或は眉大刀捍棒と打振るを競ひ
 蒐る信乃の準備の小杉本を打拂る先找し一兩僧を左右撞と撃つ其怯むと聲

高僧若若們破戒之勳の兇僧一個の敵と侮て安房の里見の犬士の一人大塚信乃とまじりて
 事とせんとすも果を替るの隊の悪僧們が入り肩尖り身と論し西膝撲地薙倒志武藝
 精妙思ふ優へ神出鬼没の掙は悪僧們と皆舌と掉き又立替る新隊のわて送巡を
 みるのまじりて徳用懐も鐵の鹿杖両も合場て輪々々西三番振試々々塵粉不做と走り
 蒐れ信乃の透きま身を及て小杉木もて丁々破と受の流り相挑めも器械相応り馬れ看
 官越し胸安くと勝負誰何と思ふもあえ知若信乃が懐裏那孝の字は灵王あり然も自得の武
 藝精妙毫毛の透間あまれば徳用懐も腕乱れ心情地お驚はも猶も撓を踏入る嘯は叫びて戦
 する事の光景目覚し雙龍深淵小珠を争ひ兩虎高岳の穴を欲するも徳やと思ふ可れ全隊
 悪僧道人們は是れて俱々長視て在り然又左右川の邊は照文代四郎居るの敵は防難共侶
 只得刀を引抜て殺拂々々一霎時挑戰も惴利連の隊勢を找め息も艱攻られれば照
 文も代四郎も竟も勢ひ窮りて代四郎は跌顛照文も亦敵の十のふ刃子と打落されてひと捕捕

らんて不娘に死、大法師の左右の帮助を喪て防術のあられ亦倒敵と拒まて観念の
 外他事多しと親兵們はと左右の抗も濡り組禁れ惴利馬士も雀躍し其収緩ゆるも足
 も結紐れと下知あけり嗚呼憐むべし下餘年料敷行脚の勇僧も時運好く暴戻奸許の這
 禍鬼を攘もあえ嗟嘆を方々り浩大大江親兵衛の政木孝嗣と石龜屋次因太卿三を
 伴多し五十三太素も吉送される水行を今日日閑宿より陸小登り路次と急いで孝嗣們先を
 正約莫一町許おきて目今這里おまよひけりこれ左右川の那方で旅客さん三個の僧俗緝捕の
 親兵と戦い肩て既小搦捕りありその旅客主僕の内中兩個は是武士中て紛々もあぶのけ照
 文と代四郎をけれ原來法師の問でもあはれ、大大徳をそあゆと驚馬思ふ意外の遭際を等とられ
 ぬ左右川橋を飛が像も渡りあ怒塔塔聲高きゆを人々も止め事具も知ぬも同藩の
 情朋友の義をそ女己ん兵毎日大士の一人冒の家臣大江親兵衛仁をも名告も果も鐵扇を
 惴利馬の尻力も来くと托地と撻と撻れて敬馬馬は只狂走れる勢ひ駐り主共侶も左右川の洲へ



天助人力
 窮
 厄と解く



水に陥る。親兵衛を奪う。鷲に謀ぐ敵の野兵を又鐵扇と毆伏せ或蹴倒し搦捕を
飛越し合て投る折る。後れて来る者。嗣次園太卿も共侶の事あり。これれらち鷲に甲乙
齊一走り渡る。左右川の橋の中央に迫る。程前面の岸多敷蔭より連放る鐵砲の筒响と共
嗣次園太卿も俱に撞と敷れて。隨て往方より急湍の水に推流され。於瀾に墜在り。身を奪り
原る。這數十挺の鐵砲。是別人の所為を。惴利辣野兵を分ちて。千人の鐵砲を持て。數蔭の
伏置に。艦丞見們尙悍く。餘もあつ。數も付ねと下知者。然るも。三千個の野兵們。思ひ
此一個の少年が。諸川の方より走り來て。天庭頭人。惴利を人馬共。捷走して。川に陥る。身を奪
方。野兵を投石の合を。人馬境に入る。如武勇。不當へもあつ。他が。一路。主僕と。武
士。名。那。少年。下。後。れて。走。り。て。川。の前。面。より。突。然。と。て。來。り。け。れ。ば。這。數。蔭。多。伏。兵。と。趣。易。寬。く
つら。一。隊。の。把。橋。と。渡。り。來。る。二。個。の。敵。と。敷。も。陥。一。隊。の。少。年。と。敷。も。陥。と。十。五。挺。の。銃。頭。と。も。多。く
其。方。推。向。て。一。度。の。鑽。て。放。り。伏。姫。神。の。擁。護。も。憑。り。親。兵。衛。大。の。身。も。捕。捕。ら。れ。て。這

里の。照。文。主。僕。代。四。郎。們。出。る。鏡。丸。宅。中。ら。む。と。敷。も。皆。他。們。が。火。家。の。親。兵。衛。と。戦。ふ。者
のみ。死。免。れ。ぬ。鷲。示。れ。て。群。る。鼠。の。逃。る。像。く。一。個。も。在。る。做。り。伏。兵。も。慌。且。恥。て。又。遠。く
丸。と。籠。籠。復。親。兵。衛。們。を。敷。も。と。結。折。ら。忽。然。と。効。風。猛。可。吹。起。り。最。凄。に。吹。れ。那。伏。兵。們
鐵。砲。の。火。索。も。都。て。風。の。合。を。れて。又。敷。も。多。く。も。あ。つ。天。庭。曇。る。塵。霧。裡。白。も。別。を。り。伏。兵
們。驚。愕。して。吹。倒。され。と。四。下。る。竹。の。葉。も。あり。け。れ。ば。數。蔭。の。年。歴。を。槐。槓。の。倒。れ。搦。捕。れ。矢
庭。の。死。者。五。七。名。を。け。れ。天。家。の。堪。を。慌。迷。ひ。て。去。去。と。せ。程。最。取。商。れ。ば。迷。ひ。て。川。の。邊。に
多。の。憶。も。風。吹。浪。を。齊。一。急。湍。に。浮。沈。流。れ。け。ん。這。頭。の。敵。も。多。り。け。れ。介。程。の。親
兵。衛。後。れ。て。來。る。二。個。の。同。乃。考。嗣。次。園。太。卿。も。方。僅。左。右。川。橋。の。中。央。に。憐。れ。敵。の。鐵。砲。敷。も。多
水。に。陥。り。け。其。光。景。も。多。く。事。急。な。極。も。由。る。刺。我。身。も。敵。の。銃。頭。も。多。く。も。あ。つ。け。り
ま。及。て。他。們。の。同。士。敷。も。一。躬。方。の。洪。福。も。多。く。の。ま。り。成。風。猛。可。吹。來。れ。て。塵。霧。裡。天。庭。野。一。靈
時。野。千。土。の。鳥。夜。も。多。く。敵。の。伏。兵。慌。迷。ひ。て。走。り。河。水。に。陥。り。其。頭。も。水。音。高。く。響。て。居。る。あ

人の呀とむらふ叫ぶ聲をきけ。介後の音も甚ま宜し奇し天助る猶幸ひるける疾風烈りり
 けれども親兵衛之餘も躬方の身邊を避て吹け中ね吹倒さる患ひもあらず。若嗣們を慎思
 哀歎交分くよもろく惘然として存け。程小動風恬塵塵狸有て青天白日明亮ら。登時親兵衛
 聲をきて登る。登りて主姥雪更幸ひりて恙る。向く。躬て七首とりて。登崎王僕代四郎を撰り
 る。系を截垂れ。大家物。中。照文と代四郎。敵の夥兵。打。隊。守。れる。而。刀。令。抗。陣。踏。感。涙。の
 找む。折る。大江生。救。れ。る。神。所。為。然。再。生。の。恩。奇。り。て。妙。天。降。之。那。果。在。ま。ら。大
 庵。ま。了。そ。の。親。兵。衛。を。守。め。邊。く。大。の。身。邊。不。找。朝。以。跪。坐。師。父。也。と。言。ふ。る。晚
 生。則。大。江。親。兵。衛。仁。を。以。年。終。四。歳。の。時。舊。里。近。行。德。也。死。目。か。て。い。ひ。と。人。傳。歩。く。の。事。而。て
 面。を。た。れ。り。は。れ。の。難。一。遲。鈍。失。敬。許。さ。せ。め。の。と。于。寧。小。陪。話。し。け。り。這。時。大。を。料。り。け。り。
 親兵衛が幫助よりて身。初。敵。の。索。被。り。且。風。雲。の。天。変。也。最。大。暗。く。多。し。時。敵。親。兵。衛。打
 墮。され。る。錫。杖。を。撥。撈。り。合。り。及。と。搭。駝。る。隨。ち。て。端。然。と。立。在。る。今。親。兵。衛。を。名。告。り。て。

左見右顧々感涙の找む。覺。き。り。領。て。詞。徐。答。る。を。り。の。ど。く。絶。て。久。し。再。會。の。由。斐。也。
 今。の。辭。鬼。と。對。治。せ。れ。武。勇。人。柄。正。是。和。殿。の。し。知。る。の。事。然。も。危。窮。の。折。り。て。風。雲。簡。夜。の
 異。る。な。げ。支。向。へ。も。あ。り。初。敵。去。て。風。雲。歇。息。送。り。送。り。對。面。何。事。汝。れ。優。ま。さ。却
 今。大。に。う。做。り。ける。多。神。の。真。助。と。靈。山。仙。果。の。藥。餌。憑。り。大。人。備。言。を。一。の。優。目。覺。き。和。殿。の
 自。餘。の。義。兄。弟。七。大。士。先。先。も。君。侯。御。子。の。拜。見。の。始。も。大。功。あり。ける。事。の。顛。末。も。日。西。國。河。の。邊
 也。憶。り。る。登。崎。生。君。命。を。傳。へ。て。反。賊。基。田。素。藤。再。征。の。鳥。と。由。稅。逸。時。甘。屋。景。能。並。お
 五。十。二。太。素。も。吉。年。と。伴。舟。路。と。上。總。へ。封。じ。ぬ。り。と。云。の。折。も。の。崖。略。の。登。崎。生。も。少。る。意。音。亦
 再。征。の。功。を。成。て。目。今。來。會。せ。れ。る。と。い。ひ。て。親。兵。衛。然。し。既。精。多。り。錯。誤。素。藤。對。治。の。事
 功。の。逸。時。景。能。孝。嗣。次。團。太。卿。之。門。の。幫助。も。又。討。隊。の。大。將。荒。川。老。の。陣。營。も。謀。一。合。さ。御
 方。の。勇。戰。一。致。の。故。然。素。藤。妙。精。宗。徒。の。兇。賊。送。り。或。生。拘。り。或。誅。七。館。山。平。治。を。討。ち
 猶。一。椿。事。の。先。命。れ。自。餘。七。個。の。義。兄。弟。を。索。て。途。不。迎。て。登。崎。生。面。會。す。這。地。の。法。慈。の。の

まの餘時かれかと思ひ心煩ふいとされても館山と辭去り孝嗣次園太卿三と伴々今日已
 牌過る時候船宿東果多送られ五十天門の相別れて陸小登り路次はを控へ剛才這里東果
 ける橋より見れば身並み登崎主僕地雲門の急難あり敵誰やあらわれ鏡も奴もささげ聊
 孤力の言ふ不猶風雲の天助あり思ひの隨ふ各位を救ひ給ふは就て又最遺憾に孝嗣次園
 太卿も横死我れ殊早うらへ他門の後れて来り程も數は陰る敵の鐵砲を敷かれて川に陥る
 骸も留まりけり今の難は是事のもの未だ驚く大と傳へ側聞を照文代四郎さしては胸を
 波して齊一嘆息をさけ姑且して代四郎の親兵衛さう向ひて喃和子老僕も毎日登崎主と
 折交使と奉り船交身の昔里る市河へと乗走る事此難は及せぬと云ふ風
 波の障りありて身が那思と去りぬ後大江屋尋ねれば本意の遠く這地来て登崎
 主對面の折交身の佳方那人の忠孝義我依を知りては憑り思ひ政木生石龜屋も這
 里を來り敵の為可惜命に預られ現痛みありと云ふ親兵衛嘆嘆して是勿論の事傳へ

我門路次とて諸川を過る折前向より來ぬ一個の法師が咱門をやらと喚住めて和君達今日大
 庵の念佛供親小會んとて結城に赴き給ふ事を知りて庵主今ほ々の地方を一路見と
 共侶を免れを急難ありぬ故の箇様々々任々の情由ありて庵主宿願成就の星額長
 老師弟の及先君季基朝臣の遺骨の又施の折小末はけを馬法師が忠告の夏之趣逆足
 寺の住持徳用その徒弟堅削門の悪心邪説を幫助給結城の驕臣経稜素頼備利門の詭
 詐の緝捕の又大山大阪大飼大川大田大村の義兄弟の塔所の茂林邊に猶在りて二隊別れて敵
 者の又大塚の登崎地雲門の幫助して庵主の俱りて塔所の茂林とて立去りての餘念佛
 供養の光景地雲雪の故主の隨意與四郎の與を改め代四郎與保と喚るこまで漏る具小告
 らる言給て諄々ね時と稜を聞き果て虚実の知密怪も胸安らね件の法師は出處を向管
 追わす只を依り立別れ飛像を走り果てれば果て那言錯と申達主僕に捕られて庵主
 も危窮の折られも擬議を踏入て聊孤力を盡さ敵の火鏡の準備あり防ぎもあらばり

素奇の風雲の幫助もして。同士敵もきて。躬方利あり。遂に怨敵退散を。皆恙なき幸ひ。是晚生
 功あり。庵主の道徳高けれ。佛菩薩の利益多し。亦守護神の冥助あり。欣然とて。送骨
 駝れ。先君威靈の擁護も。一任奇特あり。考嗣次園大卿。之果敢る。敵を撃つ。陷され。命
 命數爰も。竭る。故彼他。忠孝義。狭めて。身を禍鬼。喪れ。因果。佛説。據て。思惟。前世業
 報。之。左も右も。惜しけれ。喞言。解。示。所。呆も。照文。代。四。郎。告。を。豫。思。ひ。奇
 親兵衛。少。知。れ。他。より。當。意。即。妙。も。心。不。安。も。多。り。け。姑。且。と。照。文。の。奇
 是。亦。大江。生。少。知。れ。汝。知。れ。も。卑。職。の。地。小。事。折。大。庵。た。難。て。殆。困。た。ら。奇。の。法
 法師。の。案。内。せ。れ。面。會。の。本。意。と。遂。に。判。亦。星。額。師。弟。の。石。塔。波。の。奇。工。あり。巧。法師。の。忠
 告。あり。是。不。由。て。彼。思。ふ。和。殿。は。先。機。を。告。法師。の。權。者。の。化。現。る。を。汝。を。憑。く。い。は。代。四。郎。も。あ
 點。頭。て。俱。感。嘆。を。ら。け。這時。大。の。後。も。御。ま。朽。樹。の。代。株。の。尻。の。榿。の。件。の。奇。談。も。果。親。兵
 衛。の。向。いて。少。く。少。く。妙。多。し。這。一。致。の。善。報。凡。智。と。て。悟。り。か。げ。れ。も。那。政。木。生。と。ら。善。人

三個の落命。実か和殿の如く。過世の業因。と。思ひ。絶。絶。も。心。許。り。大。塚。が。安。危。人。那
 人。始。より。趕。多。敵。の。あり。を。せ。ん。と。思。慮。り。一。町。許。胡。意。後。れ。來。け。程。這。里。不。敵。の。起。り。折。大
 塚。も。亦。百。あ。ま。の。悪。僧。們。の。路。を。断。れ。力。戰。の。光。景。回。遠。く。も。あ。れ。地。僧。們。も。不。て。これ。を。知。り。あ。る。は。不
 風。雲。の。奇。異。あり。猛。可。暗。く。一。折。大。塚。何。う。と。今。又。不。那。里。の。敵。も。那。人。も。不。可。及。也。且。塔。所。の
 茂。林。小。敵。も。多。し。大。山。大。川。六。大。士。の。勝。敗。い。ま。知。る。を。思。ひ。の。事。と。問。は。照。文。代。四。郎。也。然。也。と。と
 點。頭。て。現。大。塚。の。上。り。も。我。們。も。亦。心。掛。れ。大。江。和。君。の。商。量。を。指。揮。據。え。り。も。要。談。ま。り。と
 言。後。れ。り。と。を。親。兵。衛。を。て。その。庵。主。も。更。進。も。然。ま。配。慮。を。大。塚。那。孝。嗣。次。園。大。卿
 三。們。と。同。し。身。を。さ。さ。は。玉。靈。玉。あ。れ。捕。捕。ら。る。も。あ。る。思。ふ。も。開。が。儘。見。捨。て。那。里。い。る。を。晚
 生。の。惡。衆。徒。不。認。ら。れ。る。を。幸。ひ。れ。那。里。も。也。赴。て。大。塚。並。餘。の。六。大。士。の。安。危。を。尋。り。力。を。勤。く。共。侶。の
 也。來。て。更。進。庵。主。俱。して。諸。川。も。退。れ。の。這。里。人。煙。遠。れ。結。城。へ。者。出。る。者。の。必。據。も。要
 路。も。今。も。祖。徠。の。人。多。し。風。雲。の。闇。を。怕。れ。然。と。亦。亦。神。明。佛。陀。の。禁。め。を。不。違。ふ。と。ん

然るに虚々として這里を長談... 除くの外和君が對面せざる大士... 我々の俱もくべしとて親兵衛沈吟... 雪更けの伴へて... 左右の水際を西之番見目丁... 正隈もろろ... 榎坂を走る人馬共... あの那奇は法師の所...

道節も野大角莊介現八小文吾素頼... 抗けり相招て喃大塚主大士... 捕られ庵主も免れ... 喚聲の高き自然の勢... 五十歩許出迎て小父公... 志小文吾信乃現八を第一番... 由大人備て通男おるけ... 目成る親親疎隔多... 跪いて傍に在り鳴半時... 微笑多く作者二十餘年...

威の小父猶子なれ。那と這と肩と比と。梢と昔と舊と。その談も樂からぬ。然る左右川橋の那方ある。日
 圃と畹と社客の這光景と。遙と鏡と。驚と怖と。途の必と。土民旅客も亦逃艱れ。遊松を
 者るは。公大士十二分。隊位を整。威風と。耀りて。徐歩も。と半里許。と。路の備。二町あり。引入れ並
 樹あり。前向ふ故。と。門をえり。登時毛野邊。先立る道節。社介小文吾現。八を喚住。各這頭。鶴
 んとる。那舊院。と。多。ゆ。れ。と。道節。一。談。と。信。乃。大角親兵衛。大照文代四郎。も。送。る。毛野
 意見と。度。と。大家。と。と。心。久。照文。隨。即。伴。若。黨。多。直。塚。紀。三。と。吟。唱。那。里。の。光。景。見。て。来。と。
 して。遣。者。一。姑。且。て。か。り。來。照文。並。大。士。們。告。事。小。可。那。里。赴。て。隈。々。檢。査。し。昔。の。時。分
 大。利。多。け。今。親。る。野。荒。果。て。草。茸。々。々。處。々。柱。礎。の。遺。れ。も。遮。莫。庫。裏。猶。れ。り。井。も。荒。廢。の。蹟。也。
 雨。の。中。月。も。漏。々。と。白。壁。壞。れ。骨。の。頭。れ。る。處。蟻。の。形。多。窓。の。似。ら。然。柱。斜。り。て。片。假。名。の。空。に。流。れ。し。
 篋。子。の。朽。て。燕。子。花。の。八。橋。と。疑。る。傍。に。守。る。者。も。但。庫。裏。の。背。の。一。編。小。る。白。屋。の。其。首。六。年
 六十許。一個の法師が。柱の背を凭りて。打盹と。在り。山禰寺。誦と。聞と。思。て。素。と。吸。覺。け。り。熟。睡

ある。聾兒多。然。心。せ。れ。術。も。る。走。り。か。ら。ぬ。報。と。照文。ら。り。所。て。且。大。士。們。の。意。見。と。向。き。異。議。あ。る。も
 の。由。れ。卒。と。な。ら。ら。ち。連。立。と。大。家。三。門。の。邊。未。迄。不。柱。酷。く。傾。れ。雖。推。々。扇。開。き。只。得。角。門。の。傾。れ。る。處
 上。の。潛。り。入。る。現。紀。二。六。が。い。ふ。と。寂。寞。と。廢。毀。院。昔。の。餘。波。礎。の。遺。れ。も。遮。莫。草。の。裡。ら。驚。と。告。天。子。の
 雲。の。入。る。青。葱。と。新。樹。の。蔭。也。郭。公。鳥。の。聲。高。く。ゆ。え。然。び。昔。生。る。石。の。水。盤。庫。く。施。主。の。連。名。と。殘。り
 笠。と。喪。ひ。露。佛。像。の。膝。の。花。開。て。鍼。の。態。と。跣。坐。あ。の。是。を。り。七。體。鼠。の。栖。木。做。る。埋。井。の。隣。る。狐。の
 亦。あ。り。衆。鳥。の。糞。白。石。上。の。兎。の。足。跡。多。かり。正。白。足。心。仁。亂。離。の。災。火。遇。去。嘉。吉。の。兵。變。火。上。なる。土。堂。伽。藍
 る。と。と。思。八。大。士。の。大。照。文。代。四。郎。と。共。侶。不。立。聚。ひ。と。れ。を。規。る。程。毛。野。の。紀。三。を。案。内。り。て。庫。裏。に。背。の
 あり。と。白。屋。の。檢。査。の。在。り。と。一。個。の。法。師。の。那。里。影。も。多。其。頭。小。立。る。石。地。藏。の。水。盤。の。左。右
 偶。々。と。土。器。の。杉。形。子。社。表。る。あり。這。石。菩。薩。の。單。の。詰。る。人。あ。り。然。然。と。美。那。法。師。の。供。入。る。と。猜。ま。る
 の。人。在。る。か。の。向。由。も。又。這。白。屋。の。前。面。の。大。石。の。竹。叢。あり。折。る。壤。と。申。は。る。筍。子。の。成。り。二。寸。或。は
 四五寸ある。毛野の那法師のから來ぬ。と。一。重。時。白。屋。の。檐。下。に。立。在。る。是。れ。も。既。白。傾。け。

又紀二天を先立立く。庫裏の邊にまよける折七太夫、大照文代四郎と俱に裡面へ入て、魏に在る。經稜素
 頼徳用堅削們都て生口毎に外面を葛籠石或は老を松敷糸して、照文の親兵伴當們ら成で
 た。現庫裏の篋子朽れも猶膝を容る処多かり、あはれ遮莫途を求め、日外極可小草を言ひ、其
 そを打布し、大法師の皮を上座卸し居て、徐に數珠を丸繰りて坐り、身邊に武士と照文代四郎
 圍坐する。毛野が今來を、照文の命。今日閉戦、不慮の事也。戰飯の準備を、執も、東
 西欲し候時、候多くと、思ふも市遠くと、微ゆるから大阪王、智徳表の譽あり、好主意の、向ふ信乃と
 推禁め、その、咱們豫より、準備を、細小の、連立、六兄弟、見ゆ、その、
 餘、告ざられ、先來、解と、事、頭末、信乃、衛中、途、舊、櫓、塚、の、小、松、木、を、居
 た、敵、敷、走り、那、徳、用、と、戦、武、藝、の、且、藤、力、人、勝、れて、六、十、年、の、思、鐵、の、鹿、杖、を
 西、採、て、一、霎、時、挑、ま、れ、分、過、る、春、械、を、漸、々、如、意、を、腕、乱、れ、堪、ら、ず、怪、れ、衆、徒、を
 罵、勵、と、助、助、と、討、つ、上、急、を、初、逃、る、惡、衆、徒、們、一、度、吐、と、返、し、合、身、推、捕、網、を、敷、く、時、小、助

風猛可不起、天を翳る塵、狸敵も信乃、仰さる、吹流されて、打擇、兵別れ、を、然、徳、用、
 惡、衆、徒、們、も、怪、れ、風、怖、れて、逃、れ、然、る、猛、衝、は、迷、ひ、心、も、退、去、り、欲、這、頭、敵、在、る、と
 猜、も、信、乃、剛、才、川、の、邊、を、敵、の、銃、响、を、思、へ、庵、王、登、崎、生、蛇、雪、們、の、疾、那、里、赴、く、
 安、危、俱、不、な、れ、心、頻、り、不、遠、な、れ、橋、枋、を、橋、あ、る、方、小、走、り、欲、せ、黒、白、も、別、を、暗、け、れ、銃、石、投、げ、
 中、届、ら、ず、小、屋、の、邊、迷、ひ、評、り、那、這、と、樹、の、揺、り、推、量、を、編、小、多、路、備、繕、堂、櫓、の
 處、を、過、り、折、心、を、見、正、可、不、是、多、と、猜、り、姑、且、風、を、避、れ、懸、く、裏、面、へ、入、て、枋、檢、る、四、面、を
 僅、六、尺、を、過、ぎ、て、立、像、の、石、佛、の、肩、風、吹、採、れ、袂、出、不、障、り、石、の、屍、と、掛、く、風、の、怪、れ
 る、程、半、時、を、風、歌、塵、埃、鎮、り、天、の、明、け、を、異、る、登、時、信、乃、這、路、備、小、堂、を、本、尊、と
 肇、て、是、石、造、の、地、藏、菩、薩、身、材、五、尺、許、多、の、臺、座、上、立、坐、る、石、の、良、形、を、面、部、の、缺
 たる、處、あり、且、甚、深、の、布、垂、表、の、麻、の、紐、を、附、る、東、西、を、納、て、錢、四、五、百、文、勝、附、る、頂、小、楸、を、其、為、体、評
 表、れ、合、卸、と、檢、ま、る、臺、裏、の、地、藏、の、頭、巾、を、下、米、式、許、藏、を、熟、思、ひ、合、ま、れ、自、裏、へ、大、庵、を、施、約、の

折最後の來りけりとの那忠告の袁老法師の紀云計は然る米所をとりて法音を取らばと云ふも
 折れぬ其のあへどさうかのよろしうこのおぼしうがさうけんせんまうくと
 這那符節を合考如し然則那袁老法師の這地藏菩薩の化現也米と錢の紀云取らば東西の疑
 る。この奇異も過れば。孰も唐山の故事と思惟する。豊山の鍾不敲く。鳴の魏榆の石も非
 情なり。又僧生公の經を虎丘寺に講する。信者あり。石を取て聽衆と做す。談
 義妙理。至る毎小の石皆點頭。此の今。這神靈奇瑰も亦那等類と云ふ。畢竟、
 大老庵主の言。年勤行不怠の積徳天地幽冥に感通す。那田舎の這佛の。告す。告す。然
 ての常言の縁を衆生に度う。抑這地藏菩薩の始見殿縁ある者の建立する。後とら
 思ひ難。御佛の背のくま。親も彫。歳月あり。嘉吉元年七月二十四日。建立願主。淨西とら。二十六
 言の鮮明。讀れぬ。越。聊考。格を。這淨西を人。素生。知。有。奇特を庵
 主の。義兄弟も。登崎。告。小事の。照。虚談。も。思。要。と。肚。裏。主。意。と。云
 決り。この地藏菩薩。黙禱。然。而。勤。財。囊。より。方。金。一。箇。合。紙。拵。て。五。百。の。錢。結。附。て

地藏の項を依楚とら。載ける。既佛菩薩も。米を。則。一。分。の。金。を。那。這。と。換。る
 る。信。而。信。乃。囊。頭。の。口。結。引。提。て。徐。外。面。程。這。路。傍。小。堂。左。右。躡。れ。て。信。乃。鬼。ふ
 面。個。の。敵。也。是。則。別。人。と。一。個。の。逸。定。寺。の。徳。用。也。鐵。の。鹿。杖。を。青。岸。採。て。存。り。又。一。個。の。同。院。の。道。人
 某。と。喚。破。落。戸。也。明。晃。々。中。刀。の。長。き。直。額。を。披。懸。く。兜。鍔。を。構。へ。り。這。時。信。乃。危
 死。と。旭。向。草。の。露。風。の。前。を。燈。火。を。思。ひ。掛。せ。と。着。着。け。る。左。右。一。度。邪。と。聲
 櫛。を。引。外。も。神。速。微。妙。の。標。桃。も。惴。り。徳。用。空。敷。く。俱。小。找。り。道。人。は。肩。尖。礮。を。擡
 け。呀。阿。と。ろ。ろ。不。叫。び。も。血。漬。起。て。仆。れ。け。徳。用。これ。驚。慌。て。こ。敷。ん。と。振。抗。る。信。乃。敷。せ
 ぎ。右。も。る。辟。骨。と。巻。揚。り。不。合。禁。て。丁。と。中。る。白。打。の。妙。術。徳。用。も。亦。竹。斗。り。て。仆。れ。て。二。霎。時。氣。絶。也。あ
 け。ん。又。起。る。も。あ。り。し。信。乃。大。刀。の。緒。抜。ち。て。最。も。緊。く。結。紐。り。け。浩。如。道。節。毛。野。大。角。莊。介。小
 文。吾。現。八。門。二。隊。の。六。犬。士。生。拘。の。僧。俗。也。或。の。馬。小。ち。駝。一。或。八。個。の。親。兵。小。牽。ま。て。連。立。て。來。小
 け。信。乃。過。よ。れ。を。視。て。近。く。隨。小。兄。弟。二。度。聞。戰。の。支。の。趣。怪。風。猛。塵。埃。を。起。て。一。霎。時



晦冥不做起りの迷ひて這里を路傍終堂風を避々料をも徳用を擒虜する地獄菩薩の
靈應利益の首尾を解して妻裏頭巾の米を又佛像の項に棄る銭と方金三指一示
きて思ひつゝ告知され六天去威胆を渡して我々の今見らざる虜小者敵の悪僧俗と兩所不
戦ひ折も又牽してあへ来ぬ路をも今風塵の起る不遇ね闇に作りたるあを意を決して伏
姫神の靈験眞助るを死体思ひゆるる這石地獄の利益を建彦願主淨西現和殿の
今もる月世在る人牧のさうり地にまれと丹の左も右もあれ這石佛の利益依てマ勢の敵と
防ぐ免準備を立地小做者しる思ひの障小克とせぬ敵の頭人悪和尚們をかくの如く虜小ま
たり有徳なき那隊小鐵砲もも庵主らるる蟹崎生も姥雪も恙る座下寔小奇之刻る所
なる稱えて俱小跪坐地獄菩薩を伏拜共側聞廿八個の野兵も皆駭然と驚愕感へ深
信胆小銘までも取満しく思ひけの時徳用の息をきき復り一六信乃の野兵小素と
取し妻裏頭巾の施米と腰小纏めてのあなとを俵野兵預る折又餘の野兵們小指一示きて

徳用が這鐵の鹿杖の後の話柄小做らるる警力あ者預ると左も右もあてとるさや。野兵
們あらは壯者一個して拾とまふ及ばぬ幫助を喚て入と辛く力と勸ても猶堪へぬあな
まも野の矢を推拵めて無益の所為小骨を折り七割ぬとあなとを俵野兵預る折又餘の野兵們小指一示きて
角の件野兵們小向ひて汝們知む約莫器械使ふ者の警力より二三等輕を利を企とる
持重もて騎馬の拵は自由なる不覺と取るとの啓言の蜀漢の関雲長が八十二行の五月龍力を
使ひつゝ三尺の重子も知れり然れども那関羽小百二十行の旅力あるや八十二行の器械と馬上自在小
使ふと小做らるる技小と思者小四子るべし然れど徳用の六十行の旅力あるや使ふ所の鏡杖も亦
六十餘行をさるる不覺と取りもあなと論き信乃のらるるで辨論定まその理あり徳用の三
カ也且武藝るるゆねども兵法と知され我と兩度の斷殺小不覺の同士敵もあなと就て亦一奇事
あの方僅徳用と俱小埋伏して酒家と敷さんと欲ら謬て徳用小敷殺される這道人を事果と後小
よ視れらる舊怨ある者る大山和殿忘れ旅と問へ道即立寄て道人の死體を孰觀つ頭を掉て

此れは 咱们がまきとつら 恥て退け 莊も野大角現八小文吾も 立替るる屍骸と 觀て乍麼 這道人の
 何筆の故大塚和殿 昔昔怨あると 訝り回へ 信乃が 豫各小解示さる 今又思ひ合
 是に 這奴則別人を 那甲斐の痕石 四六城木工作が 小厮を 出来介と 喝れ者 異名各鬼 哄誘さ
 して 酒家と 証て 不軌淫奔の 證人 ありし 其の 伎倆 多發覺れて 名鬼が 死刑に 置れ 折這奴 追放
 せられ 是より 後那里に 在るや 知る 純て ありし 地の 這奴が 故郷を 歎然ら 去流れ 承ける 後今
 又我を 擊つ 同士 敷き せられ 身と 喪ひ 因果 觀面 といふ 餘も 隱匿 積惡の 餘殃 ありし
 今 芝野 崎生 不修 する 那安西 出来介の 義侠の 與身と 殺して 其方 姓名と 貽る 這奴も 他と 同
 くて 善惡 邪正 死さる 雲壤の 差あり 亦是 宋魯の 曾參 歎めて 敬言と 做さる 然し 思ひ 解示
 せ 大家 牧馬 且 嗟嘆 して 天理 彰々 隈る 亦 今 何れ けり 畢竟 信乃が 不用 意か 齋
 米の 來歴 大照 文們 解示 後 的話 説 甚 麼 ぞ 开 下 回 解 分 ぞ 聽 ね け ぬ
 南總里見八大傳第九輯卷之十九終

拾二編 ぶまぐし内

十九

松野
 勝石院

